

県立高等学校の再編整備に係る意見聴取の結果

1 趣旨

県教育委員会では茨城県高等学校審議会答申（H12.2）を踏まえ、これまでに「県立高等学校再編整備の基本構想」（H13.9）、「県立高等学校再編整備の基本計画」（H14.6）を策定し、「県立高等学校再編整備の前期実施計画（平成15年度～平成18年度）」を実施しているところである。

前期実施計画の進捗状況等を踏まえながら、県立高校の在り方や再編整備の進め方について、教育界をはじめ各方面から意見を聴取することで、後期実施計画策定の参考とする。

2 実施期日 平成17年3月7日（月）

3 実施場所 県庁共用会議室

4 参考人

	役 職 等	氏 名
学校長	茨城県高等学校長協会 会長	稲葉 節生
	茨城県学校長会 会長	金澤 昭男
私 学	茨城県私学協会 会長	廣瀬 和喜
P T A	茨城県 P T A 連絡協議会 会長	堤 千賀子
	茨城県高等学校 P T A 連合会 副会長	埴 博光
有識者	茨城大学教育学部 教授	尾崎 久記
	自然博物館協議会 委員	関 実枝子
	茨城新聞社 代表取締役社長	友末 忠徳
	茨城県経営者協会 専務理事	野口 芳男
	茨城県市長会・茨城県町村会 常務理事兼事務局長	宮川 章

敬称略

5 意見概要

（1）高校再編整備計画の策定について

社会の変化や人口減を考えると、今後を見据えて、今後10年間は統合を含めた再編を、果敢に進めていく必要がある。

世の中は変わってきているが、高校は変われなかった。今、再編整備で変わろうとしている。大きな改革をしていく必要がある。

今までの再編計画は成功していると考えている。これまでの基本的な方向は変えないでこのまま進めてほしい。

再編整備などは、避けて通れない。社会の流れに沿った一定の対応は必要である。

後期実施計画の策定に当たっては、前期実施状況や中学校卒業生数予測の変化等に留意した修正や微調整が必要である。

つくばエクスプレス開通にともなう人の流れの変化への対応が必要である。

中卒者数の今後の減少状況をみると、今の再編整備計画では、生徒減の現状にとっても対応しきれないので、もっと再編整備を大胆にスピードアップしていく必要があると思う。小規模校では、教員も生徒もやる気がなくなるし、部活動なども十分に活動できない。そこに入った生徒たちがかわいそうである。

学校は成人になるための訓練の場でもあることから、訓練の多様性を確保する観点に立てば、小規模校であっても、専門性に特化していればいいのではないかと思う。

社会の変化が激しいのはわかるが、目先の変化にとらわれすぎないで、教育の原点を考えながら再編を進めてほしい。

社会の変化に対応することを意識し過ぎることはいかなものか。

(2) 活力と魅力ある多様な県立高校づくりについて

ア 新しいタイプの学校の設置について

単位制高校

単位制導入に当たっては、すでに単位制を導入した学校の状況を見る必要がある。

Aタイプ、Bタイプというように、これまでに設置した単位制とは異なるタイプの単位制があってもよいと思う。

高校以上では、学年や先輩後輩を意識しないで学習できる環境がほしいので、単位制はいいと思う。また、単位制は、必要な単位が取れていない場合、もう一度やり直しができるのでいいと思う。

総合学科の高校

自分が高校の時は、進路や自分の存在意義など、何も考えていなかった。卒業して初めて考えた。その意味では、入学後にガイダンスをしっかりとって進路を考えることができる総合学科はよい。

大半の子どもが普通科を希望しているが、これは進路判断の先延ばしの可能性がある。その対応としての総合学科は理想的な教育形態である。

まだ進路の方向性が定まらず、とりあえず普通科に進学する生徒にとって、総合学科は必要性が高い。

総合学科は、どんな成果（進路）につながっていくかが大事である。

総合学科は設置後年数も少ないため、その機能を十分に発揮し切れていないような気がする。生徒の実態にフレキシブルに対応できる総合学科は、今後さらに重要になることが予想される。

中高一貫教育校

中高一貫教育は、教育理念の実現に向けて6年間を見通した教育ができるので、中高一貫教育校の設置を検討すべきである。

都市部においても、進学対応の中高一貫教育校があってもよいと思う。

中高一貫教育の中等教育学校については、県としても、作ってもよい時期に来ていると思う。

バラエティに富んだ高校をラインアップする必要がある。県立高校だけの切磋琢磨ではなく、私立高校との競争に打ち勝てる環境の整備が必要であり、今後、中高一貫教育は避けては通れないと思う。

中等教育学校は、義務教育の中学校と義務教育でない高校を接続することで課題が多いかもしれない。

6年間一貫ということは閉ざされた社会になる不安もある。

その他

東京都のエンカレッジスクールのような趣旨の学校づくりも取り入れてみてはどうか。

「共生・共育」の理念のもと、高校に養護学校の分校が併設されている県もある。本県でもその意義や可能性について検討してはどうか。

生徒にとって、わからない授業を聴いているのは苦痛であるので、学んで楽しい学校づくりが大切である。

人間を教育するのは学校である。体験学習を多くして、生きるための基礎的な力を身に付けさせてはどうか。

インターンシップやプレカレッジなどにより、社会や他機関との接点を体験できるようにすることが必要である。

イ 魅力ある学科の設置について

地域特性に合わせた専門学科の配置に心がけてほしい。

水戸市内には、産業と結びついた学校があってもいいと思う。例えば、環境、エコロジー、バイオテクノロジーなどに興味・関心を持つ中学生もいるので、これらに関連した学科をもつ高校があってもいい。

中学生の進路希望調査の結果を、今後の学科の配置を考える上で十分に参考にしてほしい。

普通科であっても職業選択の時期が必ず来るので、職業選択を意識させる教育が重要である。

専門学科の高校では進学できないというイメージがあるので、進学の必要性を感じた生徒が進学できる方策をとれるとよい。

高校からさらに上級学校への進学を考える生徒が多くなっていることへの対応を考えるとよい。

ウ 県立高等学校の適正規模・適正配置について

統合

統合対象校の個々の地域における実情や学校設立の事情などの背景を考慮しながらも、県全体を考えて検討を進めてほしい。

再編、特に統合については、学校と地域の実情に気を遣いすぎている、思い切ったものはできない。

統合は、例外なしに行うべきである。

男女共学を一層進めるために、一高、二高の統合も視野に入れてほしい。

統合校の伝統の良さができるだけ受け継がれるよう、卒業生の意見を十分に聴く配慮が必要である。

統合後の新しい学校については、社会の情勢や中学生の進路希望等を勘案して、学科や新しいタイプの学校の配置についての検討を進めてほしい。

統合による総合学科等を各通学区に配置した方がよい。

統合により生じる跡地・校舎などは貴重な資源であるため、有効に活用する方策を検討することは重要な課題だと思う。

適正配置

単位制普通科、総合学科、中高一貫教育校、定時制・通信制の配置を通学区内でバランスよく実施して、生徒や保護者の選択の幅を広めていただきたい。

各通学区に少なくとも一つの総合学科、単位制を配置し、生徒の選択肢を狭めないようにしてほしい。

特色ある学校を、通学距離・手段を考慮しながら全学区に設置できたらいい。

エ 定時制課程の整備について

定時制課程の配置に当たっては、交通の利便性を考える必要がある。

定時制単位制高校の設置に当たっては、フレックススクールとして設置した鹿島灘高校の状況の推移を見守る必要がある。